

磐城中正新報

發行日 毎月一日 十五日
定額 一元 金 拾錢
郵税 共 一元 拾錢
廣告料 普通欄十二字請一行
一回八十錢 場所指定
同二十錢 増
編輯人 安澤榮作
印刷所 福島縣平町新報社
發行所 磐城中正新報社

自力本願を信條とし 絶對他の追従を許さぬ

高橋龜松氏 仁侠と純情は氏の生命

最近常磐の各炭礦は協定の悪影響の難關に逢着せし上出炭制限炭價の中合せがは一再に止まらざるも堅固角實行難に陥り其の統一必不拔克く自己の信する一に就ては時々各礦の幹部運路に猛進し遂に最後の榮冠が會合して協議するがサテを得しは實に近代稀に見る例時の間に裏切り者が出資家と推奨するも敢て過て亂賣する爲め途に折角の言であるまい。又氏は純情協定を畫餅に歸するは毎度熱血義侠心に富み他の危急繰返さるゝ事實である、落を見れば身を遣して其の禍三都の實業家として常に同中に飛び込み自己の利害を度兼者間に一頭地を抜き實力外視して其の解決に奔走すと信用と相一致し且つ仁侠の底の人である、近くは仁に富む高橋龜松氏は大に此昨年小田吉治氏の炭礦に争れを慨し常磐炭由經營上由議の起りし當時氏の調停が々しき大問題として二三大即時功を奏し短時間に解決炭礦幹部と會見し自己の腹損害なく直ちに業務に従事案を示し更に近く各炭礦の損害なく直ちに業務に従事首脳部と會見し常磐炭礦經營したるが如きは一實例である營上の一大要素たる炭價及然して氏は政治方面にも出炭制限問題に一肌脱ぐ由特殊の手腕を有し其の經驗であると、由來氏は機を見抱負と力量とは一般に認めに敏にして長い官吏生活られれてある就中氏が眞價より實業界に入りて僅かに發揮せしは

智謀の士として 敵膽を寒からしむる

佐々木健一郎氏

一面には人情味の豊かな好々翁
磐城政友會の帷幄に智謀の同業者の常に感謝してある士數多し中に其の尤なる人有所である、氏は政治上特種は佐々木健一郎氏である氏の手腕を有するは世上既に土木事業請負者として既に定評あり敢て茲に喋々の要人の知るところ且つ同業者に推はれない元來氏は斯界に往々されて濱三郡土木業組合幹見の氣荒な風は寸毫もなく争の要職にありて同業者の温情味の豊かな紳士として親睦を圖り一意専心組合の一般より敬慕されて来る町爲めに盡力されつゝあるは治問題に就ては有力な意見

平町議候補に 名乗を擧げた面々

野崎満藏氏 吉田寅之輔氏

馬目雅治氏 石山治三郎氏

柳下元吉氏 吉村安次郎氏

の所有者で殊に將來益々伸潔なる氏の如き有爲の士を
びんとする大平町百年の大送りに町治に關與せしめざ
計には常に深甚の考慮を拂はる平町三萬町民の一大損
へ町當局を指導運送する手失であり又大なる不面目で
腕と力量の持ち主である事あるとは氏の平素を知る町
は否定し得ない事實である民一般の熱烈なる要望であ
町治に精通し且つ人格の高尚
現職議で石城民政黨の重鎮氏は柳下元吉と同日同町よ
として押しも押されぬ名乗りを擧げた
人物、其の政治的手腕は茲硬骨漢で且つ雄辯家である
に敢て喋々の要はない四年齡四十二歳の壯年で業務
六時中地方問題の爲めに奔の絞屋に似合ざる題腦の所
走するが氏の生命で本年四月
十九歳の働盛りである
雄とは既に定評あり加餐自
重健闘を望む
立候補者中第二番目の年少
者本年漸く三十四歳磐陽新氏は材木町より擧町一致
開界の花形として常に同業以つて推された好運兒で本
者より羨望されつゝある人
職は建具商であるが多年町
格手腕徳望の三拍子揃つた
の爲めに公私共に盡瘁且
青年記者である、其の町治
の爲めに同業者間に重要な地位
に對する主義抱負は立候補
を占めてゐる徳望家である
の挨拶に依つて明瞭であら
ると同時に町政に對する意見
は正々堂々たるもので同町
の元老柳下氏を始め擧町一
致で推されたは無理のない
所であらうと今年取つて五
十歳
數年來財界は不況の風に見
舞はれ殊に昨年は其の風向
舞はれ殊しく本縣の經財兩
界の打撃殊に甚大で縣下屈
指の大銀行が枕を並べて外
半町では磐城銀が昨年五月
休業以來未だ開業の運に至
らず平銀行常磐へ身賣りと
云ふ悲惨状態に陥り其間一
般地方人に極度の不安を抱
かじめし、は今尙世人の記
憶に新なる所である斯る財
界の非常時に際し頭取中野
甲藏氏を補佐し此の難關を
して止まざるものである

磐陽財界の新人 瀧澤俊平氏

陽氣の加減か 出揃の悪い...

平町議の候補者

根本品藏氏
月見町の六十餘票を土臺と
して悲壯なる覺悟を以つて
出馬せし氏は胸中期す所あ
るもの如く眉宇の間に勝
算歴々たる閃きが見ゆる氏
は米穀及肥料商とし地方の
信用厚く町政に就ては多忙
の間に常に研じ町民の福利
を基礎に町政の施設改善に
就ては豊富な意見の持ち主
で本年四十歳の活氣横溢な
實業家である
其の他は種々の事情で延引
してゐるであらうが十五六
日頃には大体の届出はあら
んも全部の顔觸れの揃ふは
二十前後であるまいかと目
られてゐる

<p>首藤仙之助 内郷村宮</p>	<p>小松谷市四郎 内郷村平太郎</p>	<p>遊佐留七 内郷村峯根</p>	<p>内郷村宮 豆腐製造 組合長 赤川又一 内郷村字平太郎</p>	<p>大勉強の親玉 洋貨商 志賀商店 内郷村字平太郎</p>	<p>磐城炭礦指定 町田配給所 所主 先崎</p>	<p>磐城炭礦指定 須田商店 内郷村町田</p>	<p>山内義則 内郷村峯根</p>
<p>警部炭礦社宅世話役 菅野倉吉 内郷村町田</p>	<p>同 本田繁造 内郷村町田</p>	<p>同 吉田末吉 内郷村町田</p>			<p>磐城炭礦指定 堅坑野菜部 店主 鈴木</p>	<p>溝井吉三 内郷村峯根</p>	<p>多田一太郎 内郷村平太郎</p>
<p>書籍文具の御用は弊店へ御用命を願ひます 清水屋書店 平町二丁目 電話一三一三番</p>	<p>赤羽鐵太郎 平町北目</p>	<p>赤塚勇吉 平町五丁目 平町信用組合</p>	<p>故長井博 理學士の推奨せる 一 別府鑛水 萬病の靈藥 定價 壹圓也 一 温泉エキス 定價 五拾錢 壹圓也 (一名アンマイラス) 神經痛 リウマチスの大妙藥 平町五丁目 地方一手販賣店 山野邊藥局</p>	<p>平町城山 伊藤重善</p>	<p>平町胡摩澤 花澤兎五六 鈴木泰之</p>		
<p>平町八幡小路 代書業 鵜沼又吉 石城郡第三區 小學校長會</p>	<p>平町銀治町 三國屋印刷所 電話五三三番</p>	<p>鐵筋コンクリート管土管及瓶製造販賣 森下製陶場 森下安吉 平町胡摩澤</p>	<p>良品廉賣に勝る商略なし 磐城平町五丁目 磐城セメント株式會社特約代理店 和洋銅鐵 釜屋商店 電話九番 一三九番 振替貯金口座 東京一〇九五六番 確實敏捷は(久)の生命なり</p>	<p>外科 花柳科 一般科 婦人科 産科 内科 光線科 赤心堂 平町電話四七五番 病室 町田番</p>			
<p>内郷村金坂 理髮店 平與作 内郷村町田 藤沼理髮店</p>	<p>内郷村金坂 小田島理髮店 内郷村瀧 追川理髮店</p>	<p>内郷村金坂 柳内理髮店 内郷村竹ノ内 猪狩理髮店</p>	<p>内郷村宮澤 鈴木理髮店 内郷村平太郎 尾澤理髮店</p>	<p>内郷村宮澤昭和軒 佐藤理髮店 内郷村平太郎 加藤理髮店</p>	<p>磐城炭礦指定 ツル燒鐵工所 町田寅吉 内郷村峯根</p>	<p>磐城炭礦指定 ツル燒鐵工所 三森清一郎 内郷村町田</p>	<p>磐城炭礦指定 ツル燒鐵工所 鈴木菊次郎 内郷村住吉坑</p>